

コウボウフデの文献紹介

糟谷 大河

コウボウフデ *Battarrea japonica* (Kawam.) Y.Otani は、福島県白河市飯沢の雑木林内で、齋藤知賢氏が 1934 年に採集した 5 つの標本と、1941 年に茨城県大子町三箇ノ掛で谷田部武雄氏が採集した 10 数点の標本を元に川村清一博士によって記載された、ケシボウズタケ科 Tulostomataceae に属する、今のところ日本特産のきのこです。当時は *Dictyocephalos japonicus* Kawam. として発表されましたが、その後大谷吉雄博士により *Battarrea* 属に編入されました。最近、筑波大学地球科学系の菊池芳文博士から、コウボウフデに関する興味深い文献をいただいたので、紹介します。

いただいた文献は「珍菌コウボウフデについて」という小論で、茨城県立大子第一高等学校紀要 1: 5-12(1969)に掲載されたものです。著者はコウボウフデのタイプ標本を発見された、同校教諭(当時)の谷田部武雄氏で、文献では、コウボウフデ発見の経緯、川村博士から谷田部氏に寄せられた同定結果に関する手紙、発生地環境と生態、形態的特徴、について触れられています。文献に述べられているコウボウフデの発見の経緯をまとめると、1941 年 10 月に谷田部氏が茨城県大子町三箇ノ掛の雑木林で異様なきのこを発見し、同月 16 日に水戸市で開かれた茨城博物同好会主催の菌類研究会に標本を持参し、講師の川村博士に同定を依頼した、ということのようです。そして、コウボウフデの標本を見た川村博士の様子を、次のように記しています。

「川村先生も異様に驚いた様子で、その姿



FA-32353 (CBM) 採集者: 大作晃一
Battarrea japonica (Kawam.) Otani コウボウフデ
採集日: 2002/10/26 採集地: 福島県川内村

が今でもわたしの眼底に残っている。(川村先生は)じっと見つめていたが、これは珍品中の珍品である、と言っただけで多くを語らず、標本として持参のもの全部を研究室にと所望された。それから後、再度問い合わせや指導の文通があり、資料を提供したわけである。これは珍しい!!とは思ったが、世界の稀菌とは夢にも思っていなかったの、あのときの川村博士の報告はうれしく忘れることができない」

さらに文献には、後日、川村博士から谷田

部氏宛に寄せられた、コウボウフデの同定結果に関する 2 通の手紙の全文が掲載されています。昔の菌学者も地味なきのこの同定をめぐって苦労していたんだな、ということが理解できる、興味深い内容ですので、以下に手紙の全文を引用します。なお、この文献の入手をご希望の方は、筆者宛にご連絡いただければ、コピーをお送りします。

手紙その 1

拝呈、珍菌弘法筆三個を発生場所の腐植を附したる儘御送付被下実地を踏査致さざるもお陰様にてその生態を知る事を得欣ばしく御厚情奉拝謝候。此菌は世界に既知のものは同族のもの有れど種を異にする特徴歴然たるものあり、かつて福島県側で採れし只 1 個体の採集品ではそれを決定致すに躊躇致し居候処先日水戸にて頂戴致せし品及び今回御恵贈のものにより愈確實と相成候間目下執筆中の明年秋迄には上梓をと急ぎ居候拙著菌類図鑑(仮称)に加へ図示可致候。福島県側にて採れしものを写生致置きその図は既に自然大、着色図版に製済なるにより拙著にはその図を示し解説可致候。解説は新種菌の事なれば欧文邦文両方にて可致候。福島側にて採れし標本は粘土色勝のものにて脚苞は淡橙黄色にして、茎も粘土色を帯びる標本のみ数個ありたれども、真殿御採集のものにより脚苞以外の部分は幾分藍色を帯びることを知り申候。共旨解説に詳記可致候。

尚、本菌の形態につき最も大切なるは頭部が老熟して綿毛状に化する前の形は如何なるや、今まで見たる標本につきては何とも想像つかず、かねて真の形態を承知致度切望致居候処御恵贈の写真に依り廓大鏡をもって檢視候処、形に円筒状で表面平滑の様に見え申候処その内には剥又膜状をなさず自然に綿毛状のものと変じ候哉。その辺実地御観察相成し点をお洩し被下ば幸甚の至に存候。円筒のまま左様の状態で止まりし標本は御採集御所持なきや新たなる種属として発表する為その点も誤り無き様に記述致度念願致

候。

尚、本菌の分類上の所属は左の通りに御座候、

Basidiomycetes	担子菌門
Autobasidiomycetes	同節担子菌目
Sclerodermatineae	偽松露亜目
Tulostomataceae	ケシボウズタケ科
Battarrea 属	コウボウフデ属
Battarrea japonica	(新種)コウボウフデ

本菌属のものは世界に於ても種類多からず我邦においては他に種類なく本菌一種のみに候。右御礼申述べ度如斯御座候 以上

昭和 16 年 12 月 6 日

手紙その 2

拝呈、珍菌弘法筆に関し先日は発生の儘を働き採りたる生態を明示する標本を御恵贈被下又御恵投の写真に依り菌体頭部は最初は球状なることを知り愈本菌につき詳しく承知致すことを得欣び居候。その後あらゆる外国の文献を探索致したる結果頭部内の造子体の構造、孢子等顕微鏡性質に就てさきに同定致置たる菌属 Battarrea 属のものに非ずして愈珍奇なるヂクセオセハアロス属のものにして日本新産のものたるに確定し新学名を Dictyocephalos japonicus Kawam. と命じ今日新種発表の英文記載を完了し次に最も詳細なる記事を以て本菌を世に紹介せんとし只今日日本大菌類図譜の原稿を央ば執筆致候。元来本菌は初めよりかかる乾燥品には非ずあたかもキツネノチャブクロ等の如く初めは軟らかき多少水分を含めるものたるは想像に難からず又脚苞内には菌体伸上り発生の際までは多少憲天様物質が脚苞と茎との間に存在せしならんと想はれ候。これらの点については次目採集の幼き菌体の御恵贈を受ける際までは未定に致し置き候。

次に本菌所属の菌属ヂクセオセハアロスに就いて申上候。この菌属には種類は唯一種のみ今日まで知られておりその学名は

Dictyocephalos curvatus Underwood と申す北米産のものに候。今を去る 44 年の昔、E.Bethel という人がこれをコロラド州コロロー村と言うアルカリ土壌の荒地で数個を採集（そのうち大なるは 35cm の長さあり）ことごとくアンダーウッド教授に送り同教授が 4 年後に前記の学名を作り、学名の *curvatus* は曲れるを意味する語でその標本が大概半円状に曲れるよりかかる名を与えて新種の発表を米国のトルレー植物学クラブ紀要第 28 巻 441 頁以下に記述せしにより世界に紹介せられその標本は現在北米合衆国ニューヨーク植物園内標本館内に蔵せられている。その菌の採集はその前後今日までほかに採集せられざる珍菌にて小生は我日本産のものも最初はそれと同一種かと思ひしことあり、その後バツタリヤ属に近き点をもってこの属といたすことにし更に顕微鏡性質等により愈々米国産の一属一種なるヂクセオセハアロス属の別種菌と確定したる次第に御座候。この米国産のものは頭部の殻皮厚きがため殻皮が脱離去りたる痕にカラーの如き膜が残って茎の上端に存する特徴ありその胞子の大きさ経 5 - 6 μ なるに対し日本産のものは 8 - 9 μ にて、はるかに大形に候。即ち本菌属のものは四十年の昔発表されし北米コロラド州産の稀菌一種のほか地球の反対側なる日本で、福島県茨城県両地で県界に近い地方の二箇所て採れし稀菌弘法筆と唯二種有ることに相なり候。弘法筆の新しきものは皆藍色を帯び居り候がこれは新しきものが然る色を呈し年月を経るにつれ藍色がさめ鼠色となることと思はれ候。白色紙上に落したる胞子粉の色も茨城県のもの鼠色、福島県のもの淡褐色を呈し候。白河中学校齋藤知賢氏から昭和 10 年 6 月に送られたるものはいつ頃の採集品なるか問合せ中にて候。たぶん前年に他の人が採りしものと思はれ候。先は右迄。

匆々

昭和 16 年 12 月 18 日

付記 1: コウボウフデは現在では、*Battarrea japonica* (Kawam.) Y.Otani という学名が当てられています、*Battarrea* に近縁な属として、*Schizostoma*, *Phellorina*, *Chlamydopus*, *Dictyocephalos* を挙げることができます。当初、川村博士が、コウボウフデが所属すると考えた *Dictyocephalos* は Tulostomataceae に所属していましたが (Long and Plunkett, 1940)、Zeller (1949) は「*Dictyocephalos* 属菌には弾系がない」という主張をして Pisolithaceae に移しました。しかし現在では、再び Tulostomataceae に所属しています。

付記 2: 実は日本のコウボウフデには 2 つのタイプがあることが知られており、それは環紋弾系を持つものと持たないものの 2 タイプです。浅井郁夫氏によると、環紋弾系があるタイプは主に西日本から、ないタイプは、東日本から採集される傾向が見られるということです (私信)。川村博士の原記載をわたしは詳しくは検討していませんが、少なくとも環紋弾系の有無については触れられていないようです。環紋弾系の有無がコウボウフデやその近縁種の分類形質となるのか否か、検討の余地があると考えられますが、現在では、コウボウフデのタイプ標本は消失しており、タイプ標本に環紋弾系が有るのかないのかを確認することは残念ながらできません。しかし、日本のコウボウフデの標本を広く収集し、環紋弾系の有無をはじめとした顕微鏡的特徴の再検討をする必要があります。

引用文献

- Long, W. H. and Plunkett, O. A. 1940. Studies in the Gasteromycetes. I. The genus *Dictyocephalos*. *Mycologia* 32: 696-709.
- Zeller, S. M. 1949. Keys to the orders, families, and genera of the Gasteromycetes. *Mycologia* 41: 36-58.